

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
発達作業療法評価学演習		必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡辺 俊太郎	C320	csehrrou00032	月・火曜日 14:30～15:00		
授業の目的・概要	発達障害領域における検査法を学ぶことにより、対象児を多面的に理解する。次いで対象児によって必要な検査法を選択できることを目的とする。検査の目的、実施方法、解釈についても理解する。この講義は、同時双方向型授業等の遠隔授業で行っていく。				
学習上の助言	発達障害領域の対象は精神障害から身体障害と幅が広く、発達学的な視点がベースとなっている。よって、評価内容も多岐にわたるため、幅広い評価方法について講義する。子どもを評価する基準は人間発達学で学んだ正常発達・反射と反応の知識と臨床応用である。人間発達学で学んだ知識を復習して授業に臨んでほしい。				
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 作業療法評価学 監修：矢谷令子 / 医学書院 / 2017 イラストで分かる発達障害の作業療法 / 監修：上杉雅之 医歯薬出版株式会社 / 2017 「教科書2冊」 必要に応じて授業資料配布				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	子ども及びその保護者とのかかわり方について理解する			HSU(1)、(2)、OT(1)、(2)	
②	子どもの特性に応じたアセスメントを抽出できる			HSU(2)、OT(2)	
③	支援計画を立案する際に用いる質的評価について理解し、説明できる			HSU(2)、OT(2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	発達過程作業療法における家族との面接、発達検査の目的と留意点について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p546-557。授業資料とともに復習する。	2	
2	発達全般を評価する検査について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p558-561。授業資料とともに復習する。	2	
3	痙直型脳性麻痺、アテトーゼ型脳性麻痺の特徴を学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p103-144。授業資料とともに復習する。	2	
4	運動機能の評価(代表的なアセスメントの体験)について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p562-567。授業資料とともに復習する。	2	
5	摂食の評価について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p57-60。授業資料とともに復習する。	2	
6	ASDの特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p63-79。授業資料とともに復習する。	2	
7	ADHDの特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p81-89。授業資料とともに復習する。	2	
8	LDの特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p91-101。授業資料とともに復習する。	2	
9	感覚統合機能・感覚統合療法について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p568-574を読む。授業資料とともに復習する。	2	
10	視知覚・視覚認知の評価について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p575-578を読む。授業資料とともに復習する。	2	
11	知的障害、ダウン症の特徴を理解し、特有のアセスメントを学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(発達障害の作業療法)を読む p159-174。授業資料とともに復習する。	2	
12	知能・認知機能の評価について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p579-586を読む。授業資料とともに復習する。	2	
13	行動の評価について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p587-592を読む。授業資料とともに復習する。	2	
14	作業遂行について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書(作業療法評価学)を読む p593-597を読む。授業資料とともに復習する。	2	
15	授業のまとめ 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	1～15回の授業を見直し、定期試験に向けて復習を行う。	2	
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	90	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	定期試験を実施して評価する。発達分野における代表的な疾患の特性把握、評価、解釈、支援について問う。	試験問題および解答用紙の返却。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

担当教員：◎渡辺俊太郎

教員の実務経験： 作業療法士として 10 年以上の臨床経験。

実践的授業の内容： 臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。

双方向型授業： Microsoft Teams を使用して行います。

授業時には課題ダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限がある場合には通信量に十分注意してください。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により再度シラバスの変更がありうる可能性があります。